

地域のまつりにボランティア参加する中学生



コミュニティ・スクールに関係していく公民館

公民館を核に取組む地域学校協働活動 と 地域づくり

山口県
山陽小野田市
教育委員会

社会教育課 課長
中央公民館 館長

和西 禎行
わにし よしゆき

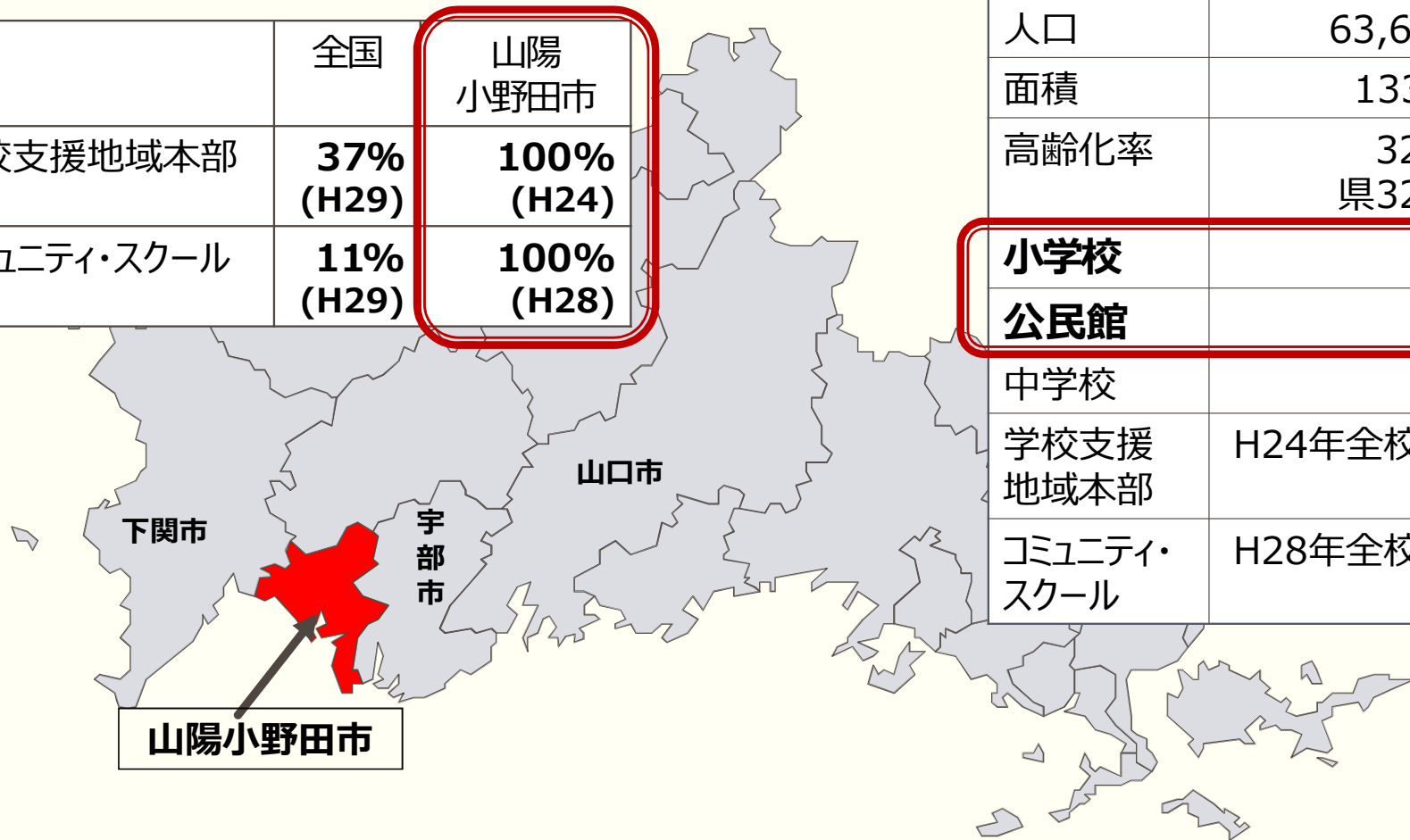
〒756-8601
山口県山陽小野田市
日の出一丁目1-1

電話番号:0836-82-1203
FAX番号:0836-84-8691
E-mail :
y-wanishi@city.sanyo-onoda.lg.jp

山陽小野田市について

	全国	山陽 小野田市
学校支援地域本部	37% (H29)	100% (H24)
コミュニティ・スクール	11% (H29)	100% (H28)

人口	63,636人
面積	133km ²
高齢化率	32.6% 県32.8%
小学校	12
公民館	12
中学校	6
学校支援 地域本部	H24年全校導入
コミュニティ・ スクール	H28年全校導入

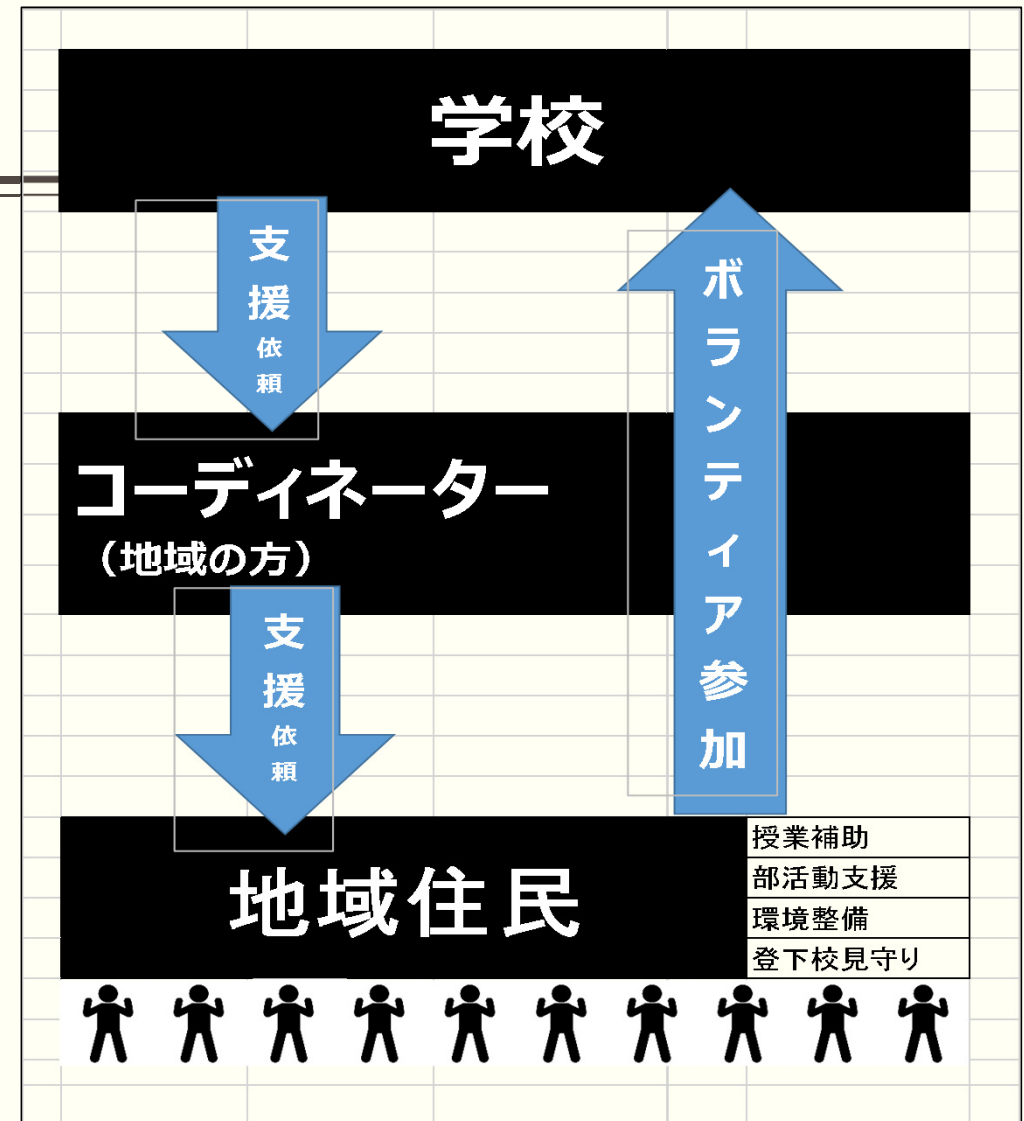


シンポジウム (A)

学校支援地域本部事業に関係していく 公民館

山陽小野田市の 学校支援地域本部事業

- 平成24年度全小・中学校に導入
(コミュニティ・スクール導入の4年前)
- 各本部には1名~2名のコーディネーターを配置 (地域の方)
- 各本部の事務局を学校に置く
- 事務は主に教頭先生が行う
- 1校あたり約30万円の予算
(総予算約500万円)



学校支援地域本部事業のようす（H24）

見守り活動



授業支援



「これからの公民館運営の基本方針」(H26)

山陽小野田市の目指す公民館

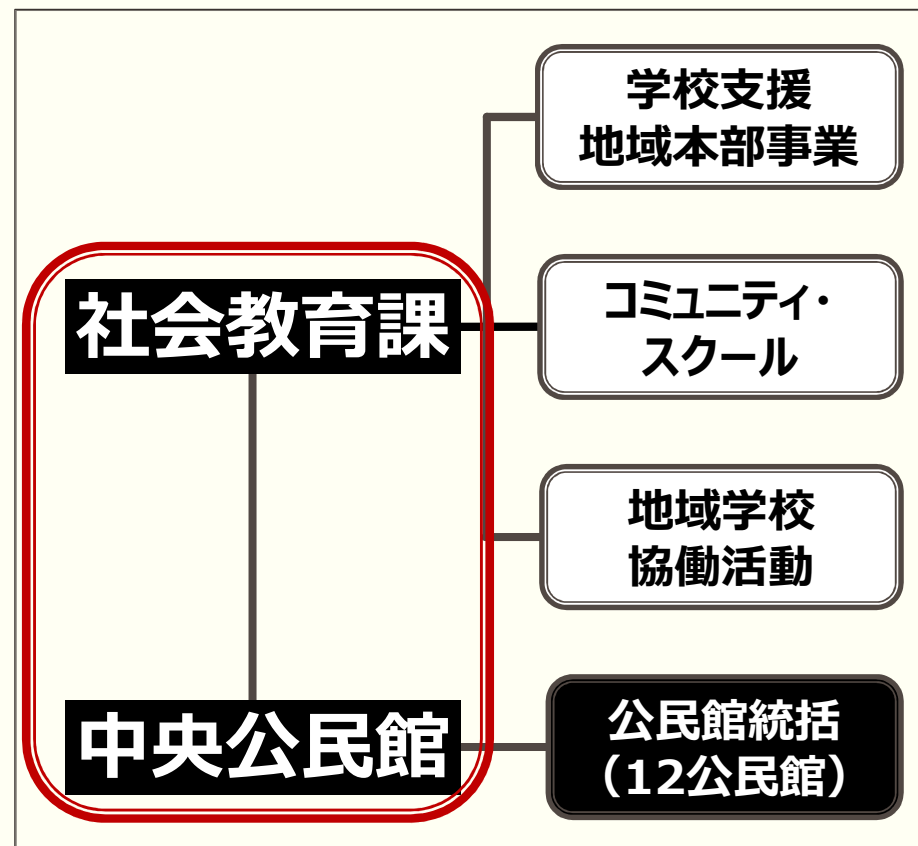
- 1 「ひとづくり」の実践
- 2 「学校づくり」へのコーディネート
- 3 「地域づくり」への波及

**公民館の可能性
を拡げる**

- 学校・地域（家庭）の連携協力の促進
（「地域協育ネット」のコーディネート）
- 地域課題解決のための学習支援の実践
- 生涯学習の成果の活用の機会提供

学社連携・融合 推進の組織上のアドバンテージ

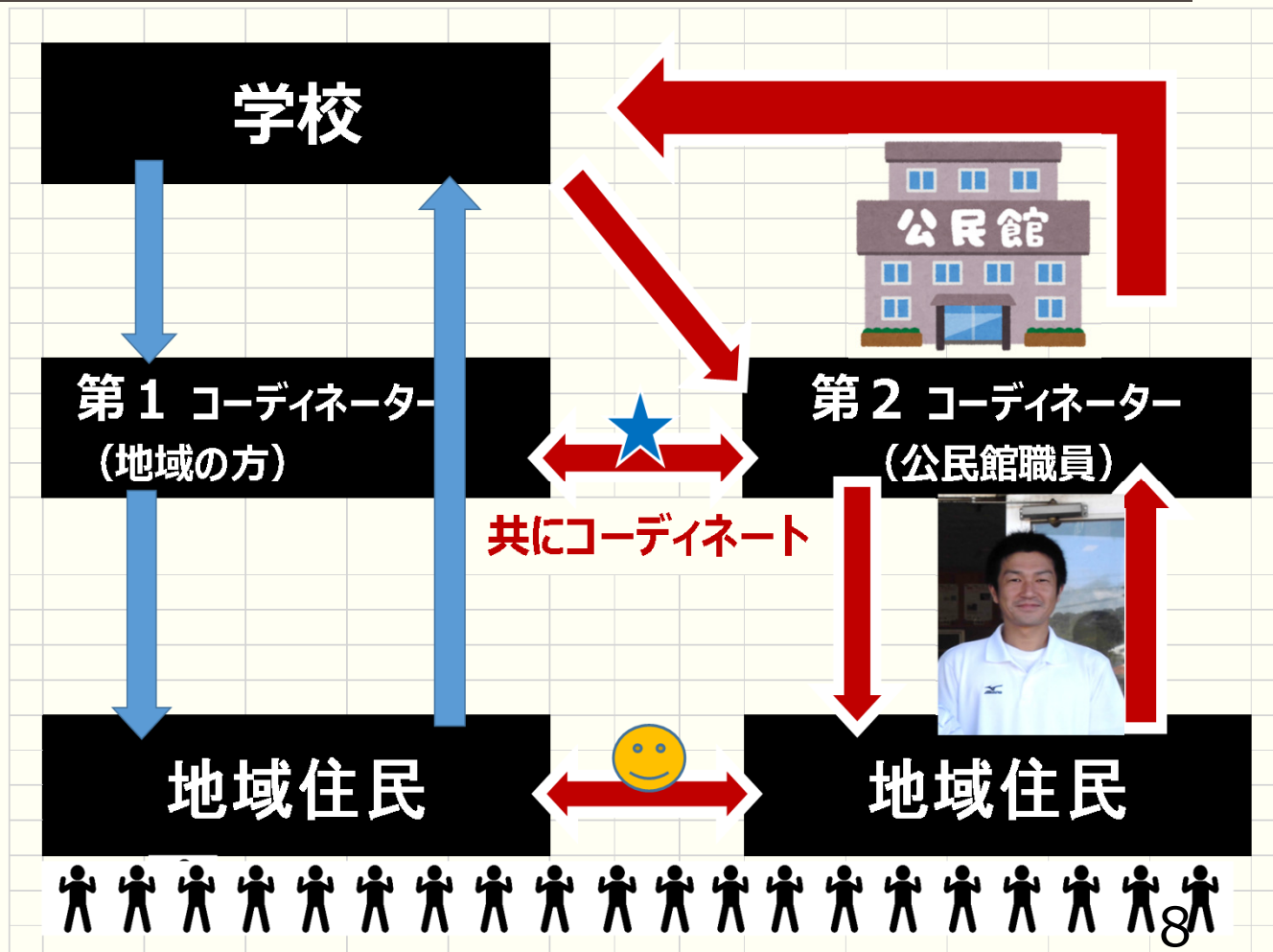
- 平成25年度から現職。
社会教育課長と市内公民館を統括する中央公民館の館長を兼務
- 平成26年度
12館のうち1館に正規職員が配属
- 「社会教育課長」として
「中央公民館館長」として、正規職員を意図的に、積極的に学校支援地域本部事業に関与させる。



公民館職員が第2コーディネーターとして活躍 (H26)

正規職員の配置を受けて

- 学校支援地域本部事業の事務局を公民館に移す
- 正規職員に学校支援地域本部事業の第2コーディネーターを業務として位置づける



公民館職員が第2コーディネーターとして活躍（H26）



地域の男性が参加 する 読み聞かせ

教員がおこなっていた「読み聞かせ」を学校支援だよりなどで募集。

登校見守り隊の 男性 の中には、そのまま登校して「読み聞かせ」に参加してくれる人も。

公民館職員が第2コーディネーターとして活躍（H26）



「楽しかったです！また機会があれば協力したいです！」

公民館クラブ生が
地域のイベントに
ボランティア参加

世界スカウトジャンボリーで、茶道、書道、浴衣の着付けなど日本文化の紹介を公民館利用者に依頼する。

「外国の人と話したことないし...大丈夫かしら」

学校支援地域本部事業の取組み（H26）

地域学校協働活動

コミュニティ・スクール

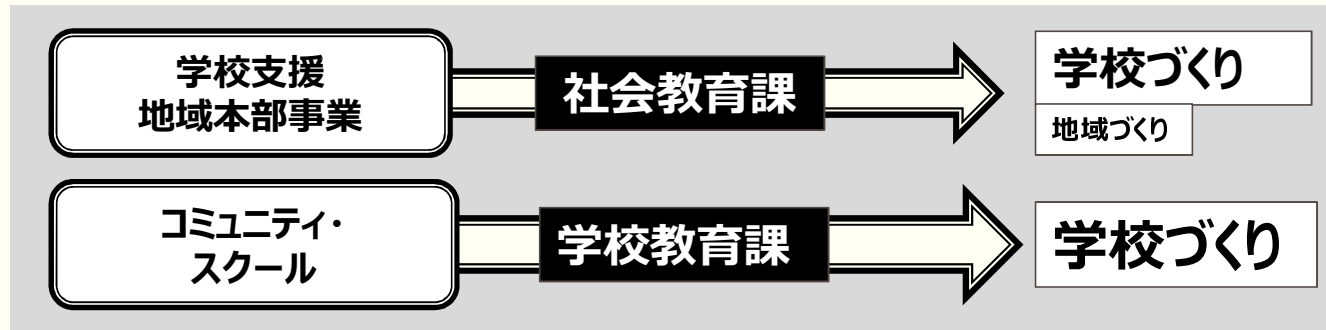
学校支援
地域本部事業



地域の人々を
学校に関係させ
ていった取組み

社会教育から取組む コミュニティ・スクール

学校支援地域本部事業 と コミュニティ・スクールを関係させる (H26)



【山陽小野田市が目指した形】



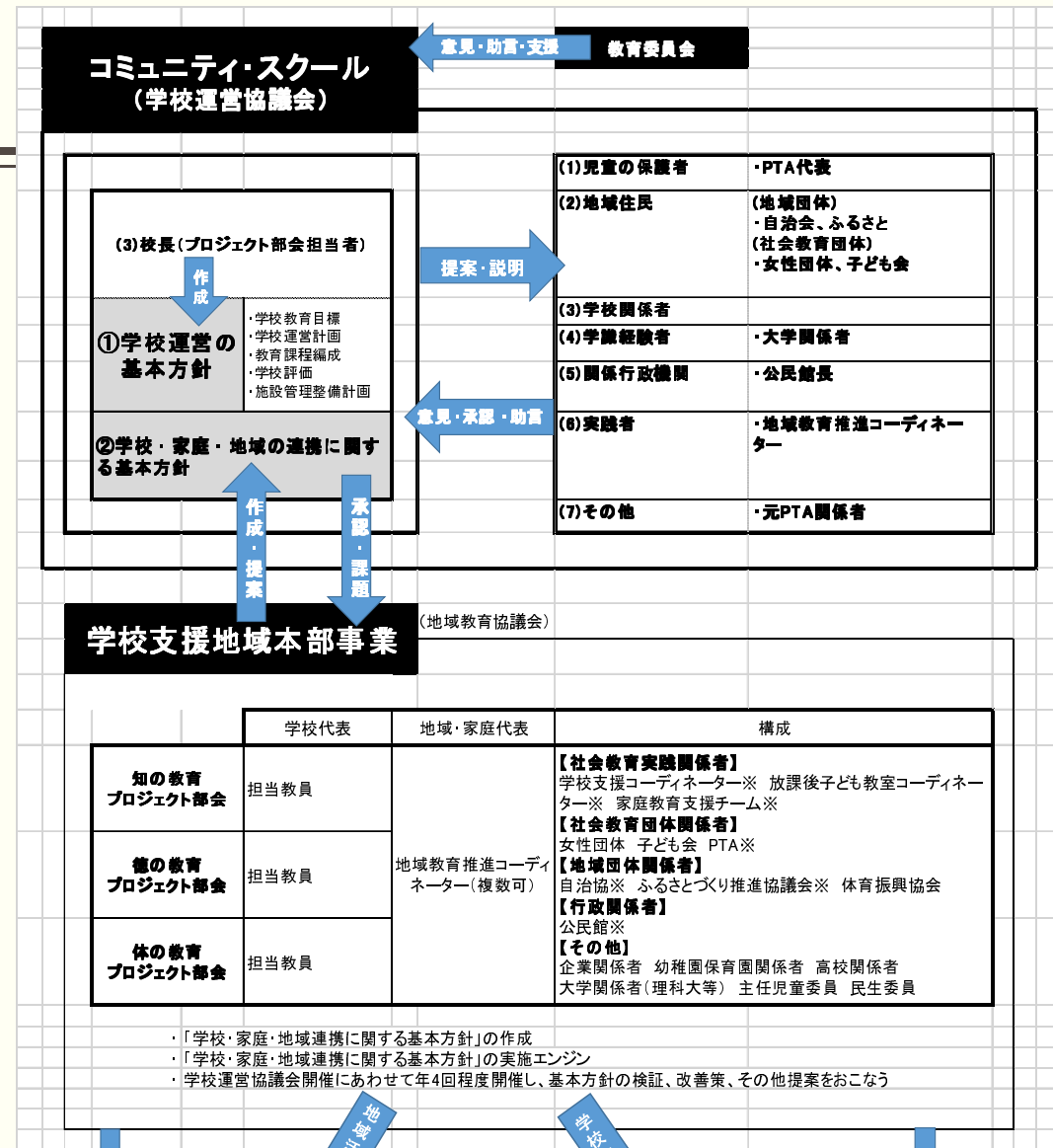
学校支援地域本部事業と コミュニティ・スクールを関係させる(H26)

コミュニティ・スクールと 学校支援地域本部が連動した しくみ



「学校・家庭・地域の連携に関する基本方針」
を全教職員が参加する学校支援地域本部の
会議で協議し、学校運営協議会で承認を得る

“しくみ” から 学校支援地域本部事業と
コミュニティ・スクールを一体化させる



学校支援地域本部事業 と コミュニティ・スクール(H26)

地域教育協議会（全教職員が参加）



知・徳・体 3部会ごとに地域の方と協議。「学校・家庭・地域の連携に関する基本方針」を策定。

学校運営協議会



学校経営方針とともに、地域教育協議会が策定した「学校・家庭・地域の連携に関する基本方針」を審議。

学校支援地域本部事業とコミュニティ・スクールを関係させる(H26)

地域学校協働活

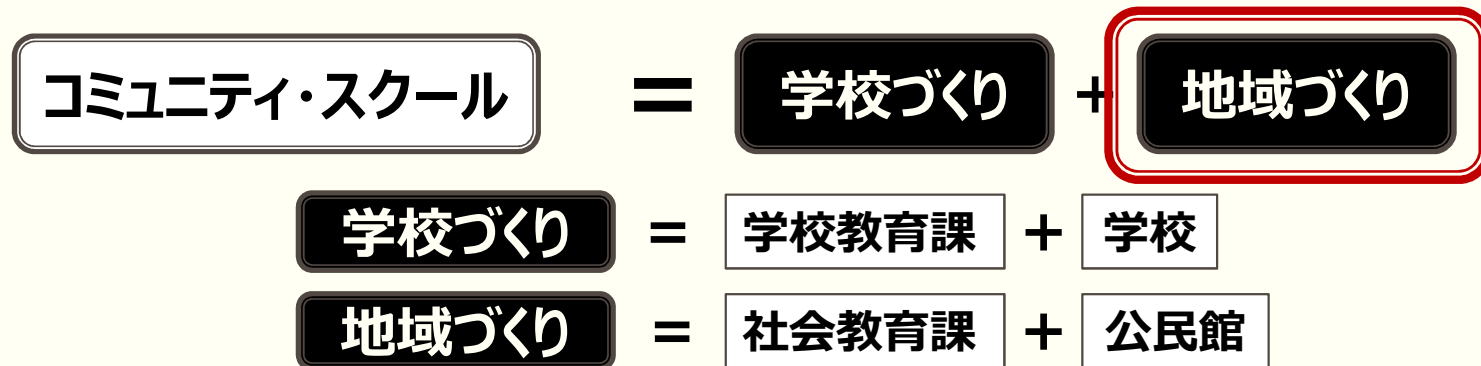


シンポジウム (B)

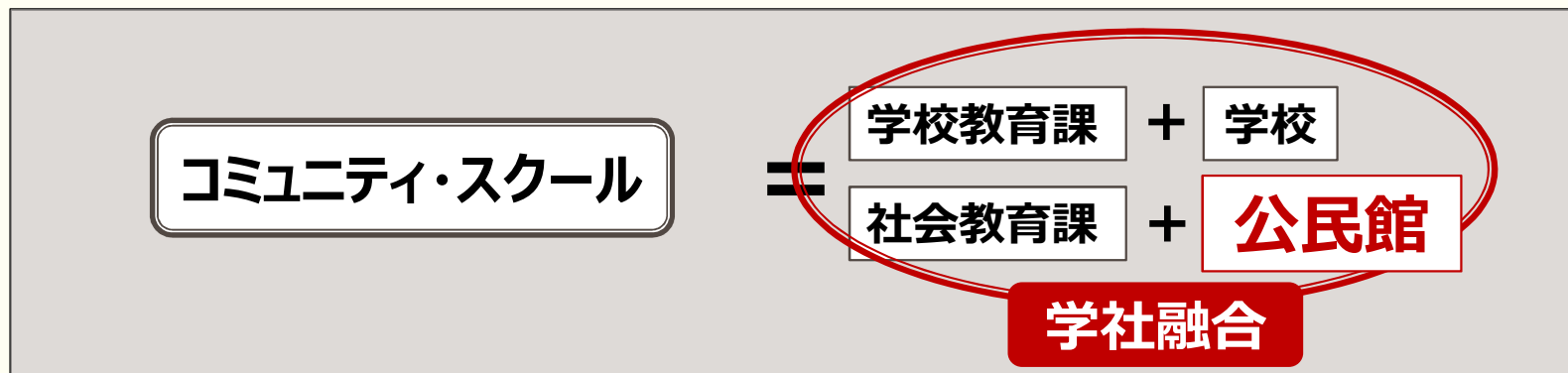
コミュニティ・スクールに関係していく 公民館

(地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト！)

コミュニティ・スクール導入時に 山陽小野田市が考えたこと



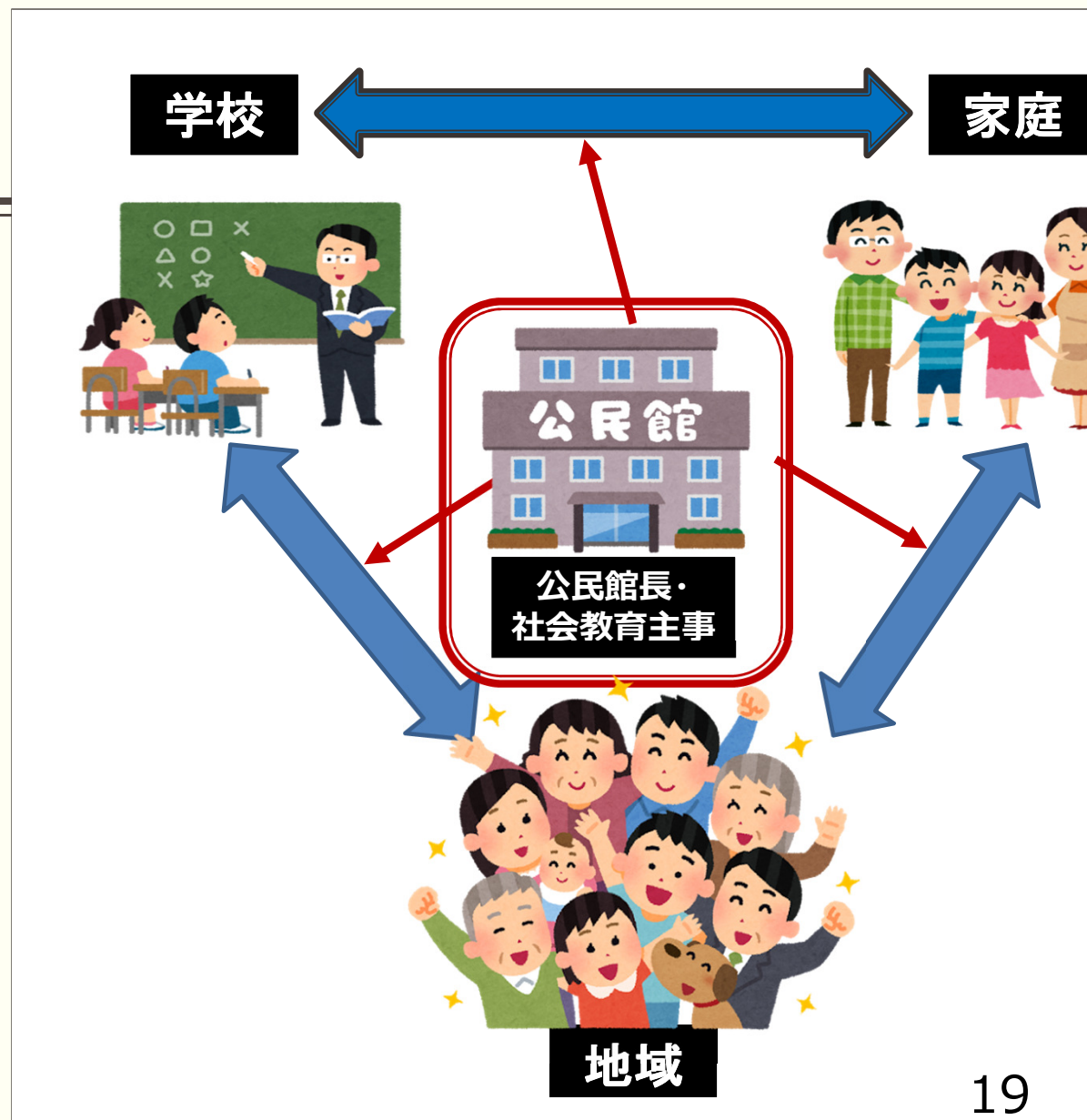
【山陽小野田市が目指したこと】



地域力・学校力・家庭力 向上プロジェクト！(H27)

「コミュニティ・スクール」「地域協育ネット」
「学校支援地域本部事業」など、
いわゆる山陽小野田市型“学社融合”の
取組みの総称。

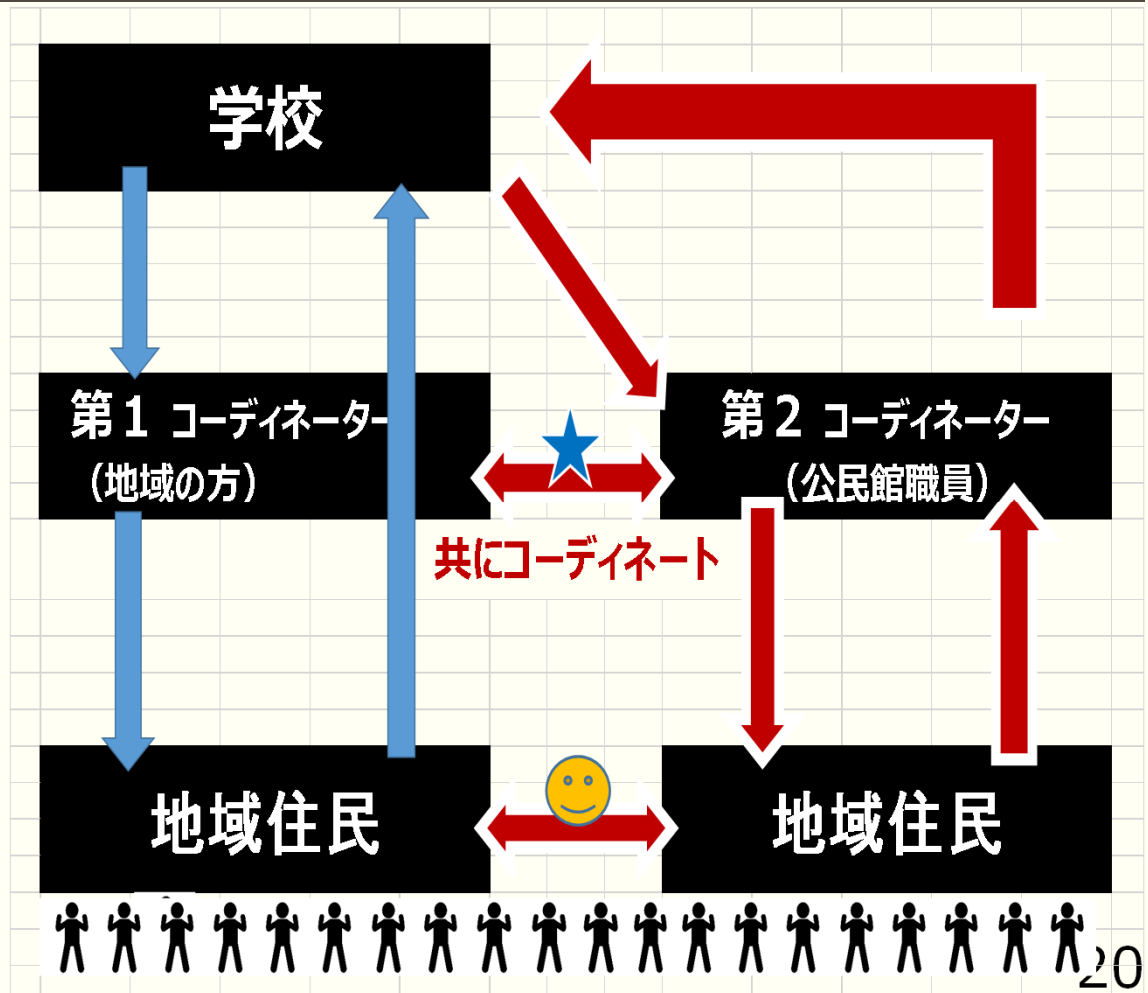
プロジェクトの中心に公民館を置き、公
民館長が 第2コーディネーター として、
地域の特色を反映した取組みをすすめ
る。また、俯瞰的な立場のサポート役を
社会教育主事が担うことでプロジェクトの
円滑な推進を目指す。



「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト(H27)」 公民館職員（館長）が第2コーディネーターとして関与する（全館）

学校支援地域本部とコミュニティスクール
がボーダーレスになってきている しくみに
全公民館を絡めることにチャレンジ

2年前、施行した1館での取組みの手ご
たえをもって、学社融合の化学反応がおき
る、ことを期待してのチャレンジ



公民館の郷土学習講座を小学校で開催



学校の授業の一環。地域の歴史を地域住民の手で児童に教え、伝承していくことを目的とする。

児童と公民館学習者が自治会ごとに分かれてグループ学習。同じテーブルで地域の歴史を学ぶ事により、つながりが生まれた。

学びの通しての
地域(世代間)のつながり

小学校を会場に開催する公民館講座



小学校の図書室に会場を移して、公民館講座を開催。（切り絵教室）

学校の昼休みの時間帯にあわせて実施する。興味をもった児童が飛び入り参加して、地域の人と作品づくりをはじめ。

小学校での生涯学習

小学校の授業に参加する公民館講座



公民館で、小学校の授業への参加を募集。図工の授業で児童と同じ材料を使って版画にチャンレジ。

学校を身近に感じる貴重な機会となる。

小学校での生涯学習

中学生が地域行事に参加



「地域 → 学校」
の支援の形に加え、
「学校 → 地域」
の地域貢献活動も行われる。
中学生の地域活動への参加に
積極的に取り組む

事前打ち合わせ等を通じ、お手
伝い感覚から主体性をもった参
画に発展するように工夫してい
る。

地域貢献

公民館学習者による授業支援



年度当初、館長が、「日頃の学びの成果を、学校の教育活動等に活用し、地域づくり・学校づくりに貢献してもらいたい」旨の依頼を行う。趣旨に賛同したクラブ生の支援がはじまる。

習字は教員 1 人では指導を徹底することは難しく、クラブ生がサブティーチャーとして指導の支援をすることで、細やかな指導ができ、児童の学習効率が上がる。

学びの成果の活用

コミュニティ・スクールに関係していく公民館（H28）

地域学校協働活動



公民館長の所感（第2コーディネーターとして関わって）

- 多くの活動に中学生がボランティアとして参加し、運営の手伝いをしてくれることで、活動を盛り上げてくれた。
- 当初、指示まちだった中学生が、何回が活動に参加するうちに、自分たちで考え、行動するようになってきている。
- 公民館利用者は当初気後れしていたようだが、教室等が終わるとたいへん喜ばれ、次回も機会があれば参加したい、といわれるようになった。
- 地域の方は、何度か学校に通ううちに学校の敷居も低くなり、気軽に学校へ行けるようになってきている。
- （小学校、公民館合同学習フェスタについて）小学生の全児童と保護者が公民館に来てくれたことが、一番の成果だと思う。

公民館長の所感（第2コーディネイターとして関わって）

- 様々な活動への負担感からか、人々の意識にずれや誤解が生じはじめている。個々の思いを集約し、共有しながら、地域の実情に合わせて無理なく進めることが必要である。
- 学校にたくさんの地域の人が集い、つながり、地域の大人同士の絆が深まるように、つまり「学校を大人の学びの場にしていく」取組みをすすめる必要がある。
- 公民館が本来担うべき役割「つどう・まなぶ・むすぶ」を学校に求めようとしているが、地域活性化の実現に向けた取組みを、今一度、社会教育、学校教育それぞれの立場から考えてみる必要がある
- 保育園や学校、地域が一緒になって未来の地域を考え、一過性の支援に終わることのないように時間をかけて取り組んでいきたい。

シンポジウム (C)

公民館を核に取り組む 地域学校協働活動

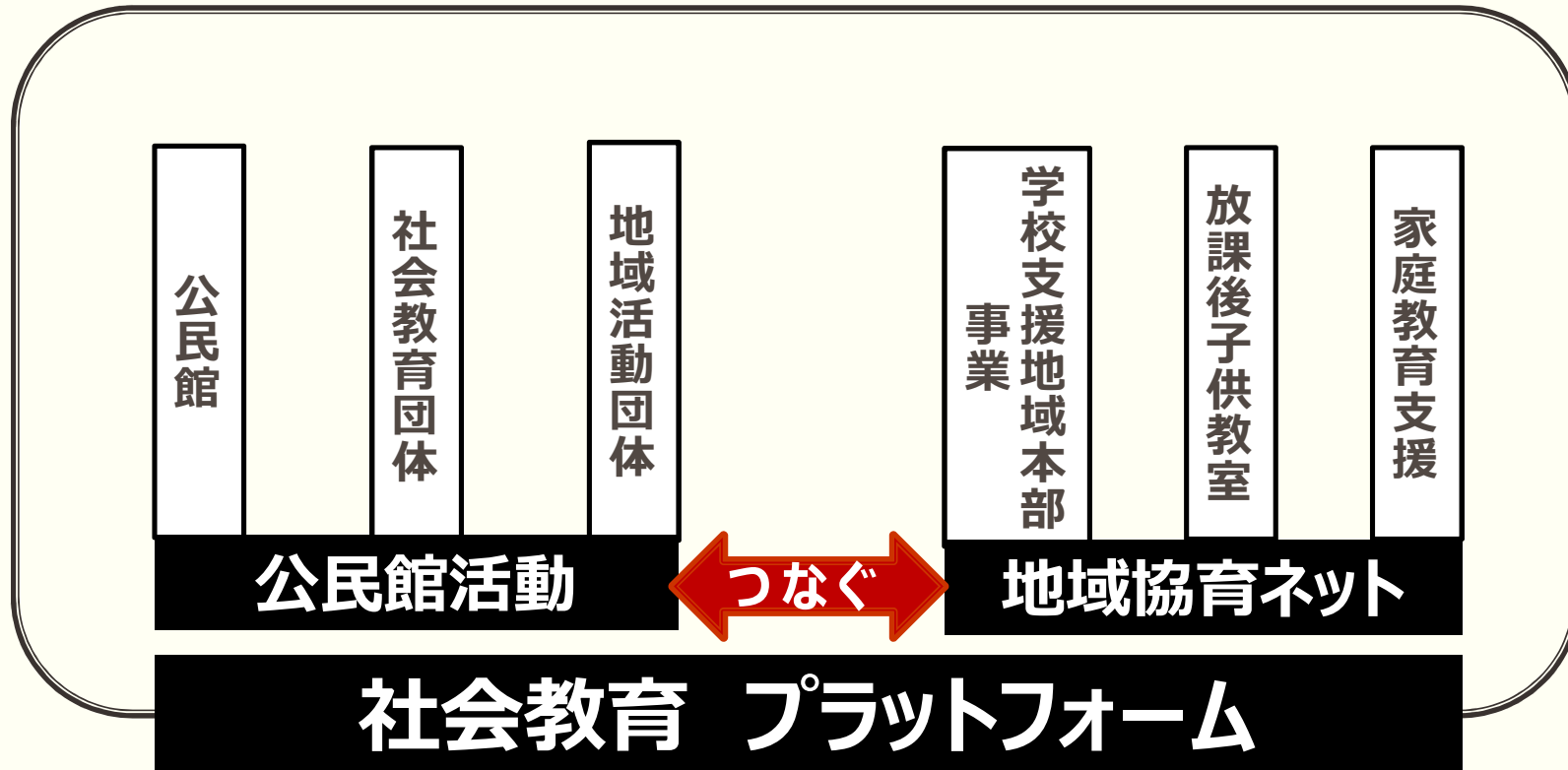
① 学社融合 一つの“社”

学社連携・融合の前に、“社”を一つにしなければ・・・

「学社の連携・融合」と言う前に、
“社会教育”が1つになっていないのではないか・・・



学社連携・融合の前に、“社”を一つにしなければ・・・

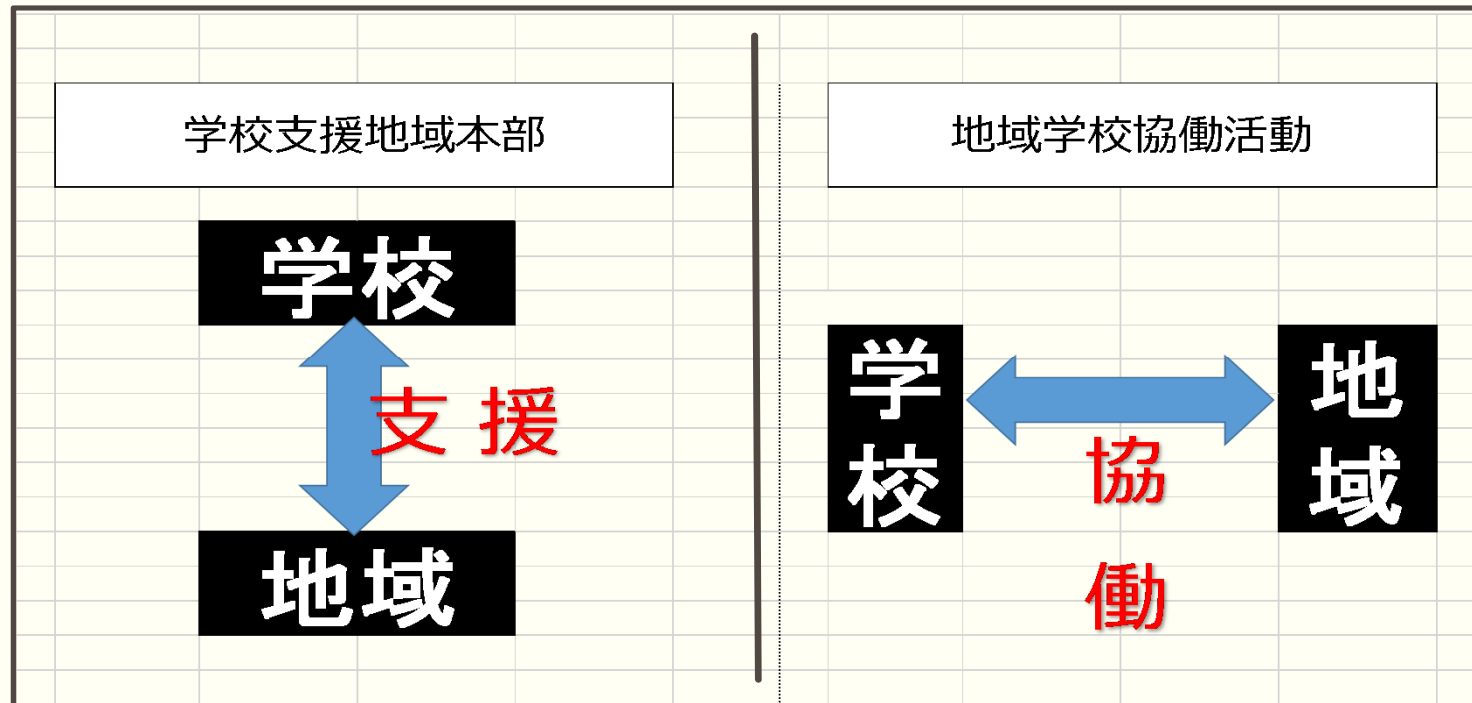


シンポジウム (C)

公民館を核に取り組む 地域学校協働活動

② 「支援から協働へ」

地域学校協働活動の課題



開かれた学校



地域とともにある学校

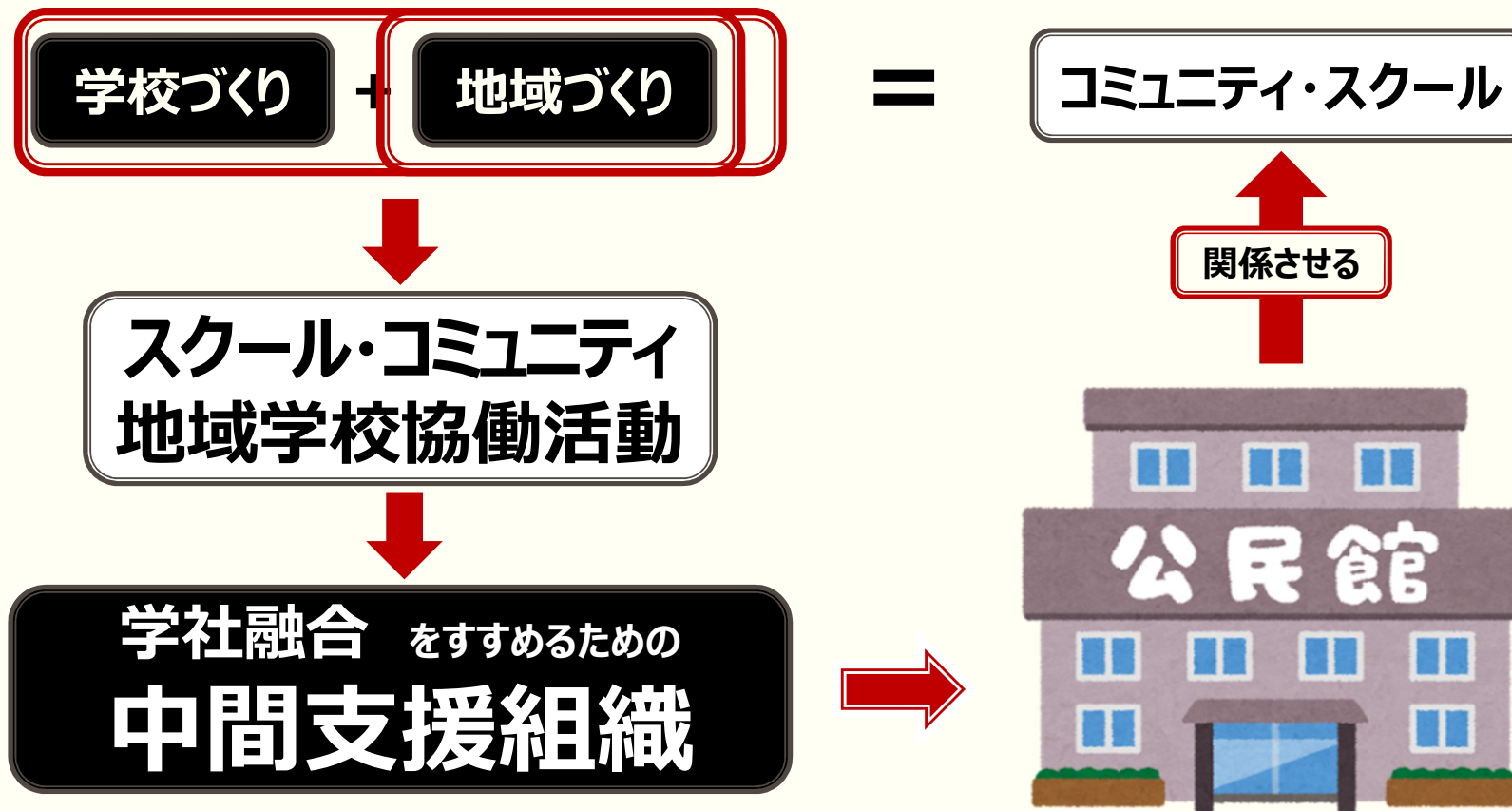
学校とともにある地域

シンポジウム (C)

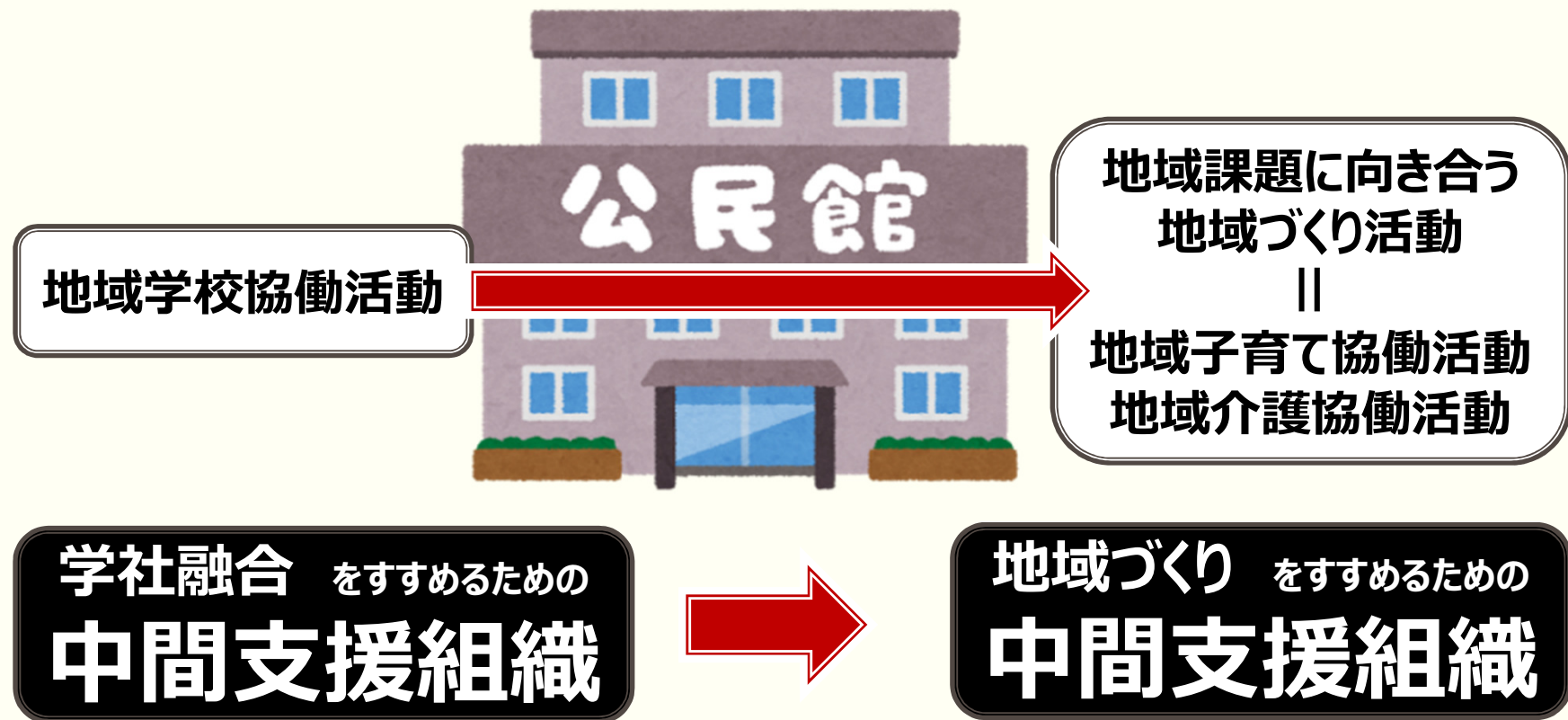
公民館を核に取組む 地域学校協働活動

③ 地域づくりのための中間支援組織として (首長部局との連携)

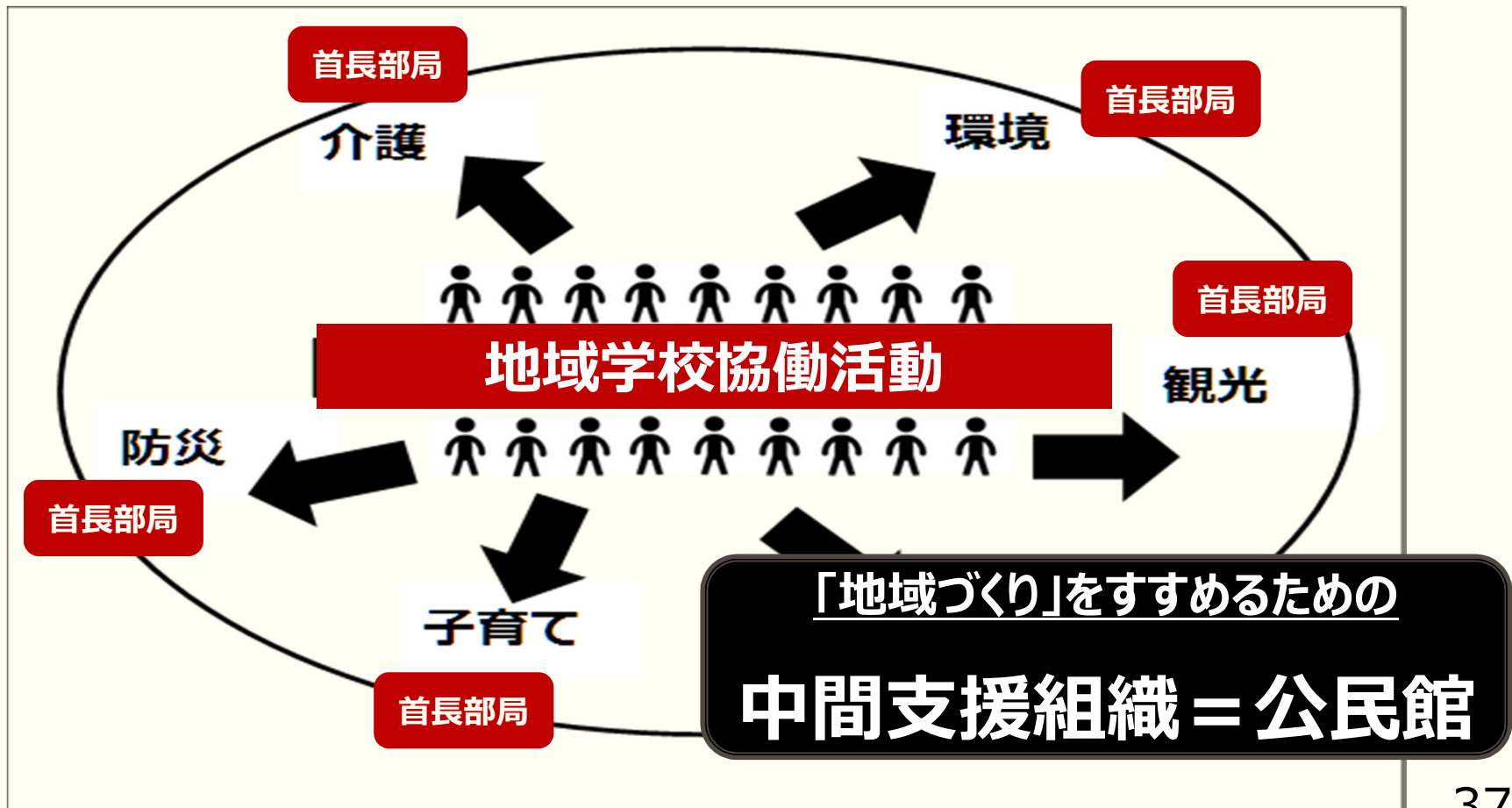
山陽小野田市の“学社融合”が目指したところ



山陽小野田市の“学社融合”が目指すところ



山陽小野田市の“学社融合”が目指すところ



地域課題を意識した公民館の取組み（子育て支援）



公民館が コーディネートする 子育て講座

子育てについて学ぶとともに子供同士、親同士のストレス解消する機会、交流の場となっている。母子保健推進員が子守で協力。

親同士お互いに情報交換を行う仲になってきている。若い親子をしっかりとささえるとともに、公民館を身近に感じてもらえるようになっている。

地域(子育て)協働活動

地域課題を意識した公民館の取組み（介護）



公民館を拠点に すすめる「地域支え 合いネットワーク」

介護保険の制度改正により、買い物、ゴミだしなどの軽度な生活支援は地域が担うことになる

地域単位で推進母体となる「協議体」の設置が義務付けられる

公民館が関与して、協議がすすむ。

地域(介護)協働活動

本日 お話しさせていただいた こと

